

【別紙】 申請した写真と動画（一部）

★は広島平和記念資料館で現在常設展示

いずれも報道用素材として提供できます。申し込み方法や使用条件については末尾をご覧ください。

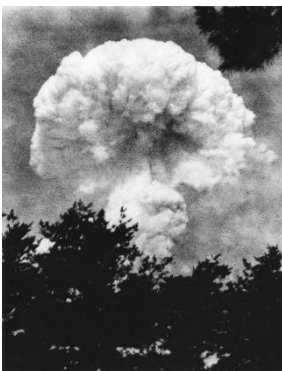
■写真



1. 原爆さく裂直後の「きのこ雲」 ★

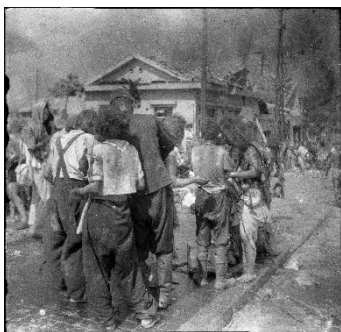
1945年8月6日、深田敏夫（ふかだ・としお）氏撮影、広島平和記念資料館所蔵

広島陸軍兵器補給廠に動員されていた深田敏夫氏(当時 16 歳)は、爆風に吹き飛ばされた後、建物(第二兵器庫)の 2 階に駆け上がり、持っていたカメラ(ベビーパール)で窓から北西に向かって撮影した。続けて 4 枚撮影したうちの 1 枚目



2. 原爆さく裂直後の「きのこ雲」 ★

1945年8月6日、山田精三（やまだ・せいそう）氏撮影、中国新聞社所有
中国新聞社のアルバイトだった山田氏が爆心地から約 6.5 ㎞北東の広島県府中町から撮影した「きのこ雲」。原爆のさく裂から約 2 分後とみられ、地上から最も早く捉えたきのこ雲とされている



3. 被爆当日の市民の惨状 ★

1945年8月6日、松重美人（まつしげ・よしと）氏撮影、中国新聞社所有、日本写真保存センター所蔵

中国新聞社の写真部員だった松重氏が爆心地から約 2.2 ㎞の御幸橋西詰めで撮影した市民の惨状の 2 枚目。松重氏は広島の被爆当日に市民の生々しい傷をカメラに収めた唯一の撮影者で、夕方までに 5 枚を撮影した



4. 罹災証明書を書く警察官 ★

1945年8月6日、松重美人氏撮影、中国新聞社所有、日本写真保存センター所蔵

御幸橋の東側にあった広島地方専売局の前で、被災者に囲まれ「罹災証明書」を書く宇品署の藤田徳夫巡查(当時 28 歳)。机を置いた場所は路面電車の停留所「皆実町三丁目」南側。藤田巡查は宇品署(爆心地から約 4.7 ㎞)で被爆し、割れた窓ガラスで額を切ったが、御幸橋西詰めの派出所に駆けつけ市民や学徒らの救護などに当たった



5. 壊滅した市中心街 ★

1945年8月7日、岸田貢宜（きしだ・みつぎ）氏撮影、岸田哲平氏提供
中国軍管区司令部の報道班員だった岸田氏が撮影した繁華街の本通り商店街の焼け跡。爆心地の東約450m付近から撮影。岸田氏は壊滅した広島市の中心街を最も早く写真で記録した



6. 大やけどの被爆者 ★

1945年8月7日、尾糠政美（おぬか・まさみ）氏撮影、広島平和記念資料館所蔵
似島検疫所。兵士は腹巻きをしていた胴回りを除きやけどを負った



7. 広島第二陸軍病院太田川畔テント救護所 ★

1945年8月9日、川原四儀（かわはら・よつぎ）氏撮影、広島平和記念資料館所蔵
本川土手の臨時救護所に収容された負傷者。原爆投下で広島第二陸軍病院が全壊全焼した後、テントを張った中にむしろやござを敷いて設営された



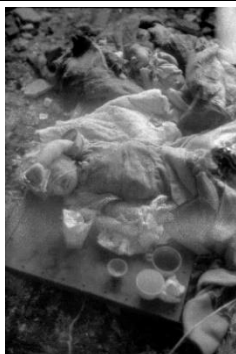
8. 広島赤十字病院でやけどの手当てを受ける少年 ★

1945年8月10日、宮武甫（みやたけ・はじめ）氏撮影、朝日新聞社所有
終戦直後の1945年9月4日の朝日新聞（大阪）に掲載された原爆が人体に及ぼす被害を最初に伝えた写真の一枚



9. 荷台に乗せられた少女に食べ物を近づける救護隊員 ★

1945年8月10日、宮武甫氏撮影、朝日新聞社所有
荷台の上に少しわらを敷き、薄い座布団の上に横たわった少女の口元に食べ物を近づける救護隊員。爆心地から約900mの上流川町（現胡町）の日本勧業銀行広島支店の北側歩道付近



10. 広島赤十字病院で横たわる負傷した幼児 ★

1945年8月10日、宮武甫氏撮影、朝日新聞社所有
中央の幼児は、頭部や顔を負傷し、鉄板のようなものの上に寝かされている。子供たちの周りには、がれきがむき出しで、院内の屋外に收容されているとみられる。陸軍病院でもあった同病院は、全壊全焼地区の中でも残存し、他の病院以上に医薬品の備蓄もあったが、直後から押しかけた多くの負傷者の治療でたちまち使い果たした



11. 顔一面に負傷した少女 ★

1945年8月9日、国平幸男（くにひら・ゆきお）氏撮影、毎日新聞社所有

ガラスや砂のため顔一面に負傷した少女。撮影場所不明。少女の身元は当時10歳だった藤井幸子さんと判明し、毎日新聞2018年1月26日朝刊で報道



12. 京橋西詰め（現橋本町）から北東に向かってのパノラマ（7枚） ★=左側のパノラマ

1945年8月9日、国平幸男氏撮影、毎日新聞社所有

爆心地から1400_{メートル}。左端は京橋川、稻荷町電車専用橋。左手奥に広島東警察署。その手前の墓石は広教寺の墓地の焼け跡か。日本勧業銀行広島支店、中国新聞社、福屋新館、広島流川教会、福屋旧館が見える。肉親を捜しているのか、人々の姿が確認できる。中央奥にかすかに広島県商工経済会（現在の広島商工会議所）、その手前に迷彩色を施した広島中央放送局。右端の2枚は京橋川、奥に栄橋、二葉山



13. 焼失した毎日新聞広島支局から北西に向かって ★

1945年8月9日、国平幸男氏撮影、毎日新聞社所有

爆心地から290_{メートル}。中央左よりに燃料会館（現在のレストハウス）、右端には広島県産業奨励館（現在の原爆ドーム）、広島県商工経済会（現在の広島商工会議所）の一部が見える



14. 中国新聞社から東南方向を望む ★

1945年8月9～17日、佐伯敬（さえき・たかし）氏撮影、共同通信社／広島大学原爆放射線医科学研究所所有

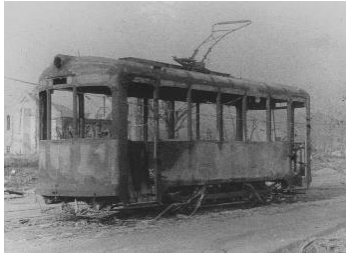
煙突1本を残し焦土と化した広島市街の写真として配信、広島原爆の惨状を初めて全国に伝えた写真とされる。煙突はしょうゆ醸造所の久保田本店



15. 西練兵場付近の被爆遺体 ★

1945年8月9～17日、佐伯敬氏撮影、共同通信社所有

爆心地から500_{メートル}の基町。収容中の変わり果てた姿。この付近ではこのような犠牲者が多く見られ、なお遺体の収容は続いていた



16. 全焼した路面電車

1945年8月10~11日、中田左都男（なかた・さつお）氏撮影、
共同通信社／広島大学原爆放射線医科学研究所所有

爆心地から約840メートルの八丁堀付近の電車通りで被爆し、全焼した
路面電車（400形）



17. 「原子爆弾放射能傷」の兵士 ★

1945年9月3日、木村権一（きむら・ごんいち）氏撮影、広島平和記念
資料館所蔵

当時21歳。爆心地から1キロの歩兵第一補充隊の木造家屋内で被爆。8月18
日頭髪の脱毛。29日歯茎から出血し、皮下溢血（いっけつ）斑に気づき30
日に入院。31日夕刻より発熱。9月1日咽頭痛、嚥下（えんげ）痛が激しく
なり、歯茎からも出血。3日21時30分に死亡。写真は、亡くなる2時間前の
撮影という



18. 広島赤十字病院の外来患者。頭髪の抜けた姉と弟 ★

1945年10月5~6日、菊池俊吉（きくち・しゅんきち）氏撮影、田子は
るみ氏所有

広島赤十字病院。外来患者。頭髪の抜けた姉（9歳）と弟（7歳）。舟入町（爆心
地から1100メートル）の自宅近くの銭湯で被爆。防空壕（ごう）に逃げたものの、
重傷者が運ばれてきたので外に出され、黒い雨を浴びた。脱毛、食欲不振、
歯茎からの出血、発熱などの症状を発生し、9月24日に初診。弟は1949年6
月17日に11歳で、姉は1965年1月21日に29歳で亡くなった



19. 大芝国民学校に収容された被災者の診察 ★

1945年10月11~12日、菊池俊吉氏撮影、田子るみ氏所有

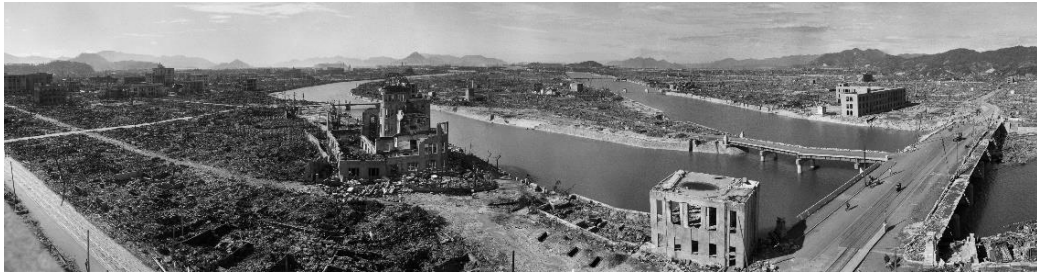
救護所となった大芝国民学校に収容された負傷者を診察する医
師、看護婦。むしろや布団の上に被災者が寝かされている。手前
の被災者は脱毛の症状を示し、奥には蚊帳がつけられている



20. 広島瓦斯工場のタンクの影（ハンドル） ★

1945年10月6~11日、菊池俊吉氏撮影、田子るみ氏所有

爆心地から約2000メートル。タンクの表面に塗られていたコールター
ルが熱線で溶け流れ落ち、ハンドルが熱線を遮った部分だけが
黒い影のように残った



21. 爆心地付近の焼け跡のパノラマ ★

1945年10月5日、林重男（はやし・しげお）氏撮影、広島平和記念資料館所蔵

広島県商工経済会（現在の広島商工会議所）望楼から。左から広島県産業奨励館（現在の原爆ドーム）、日本赤十字社広島支部、相生橋、本川国民学校などが見える

※参考：下の元資料の360度パノラマ写真をトリミングしたものです。



■動画



22. 「日本ニュース第257号 原子爆弾 広島市の惨害」 (2分50秒)

1945年9月3日ごろ、日本映画社撮影、日本放送協会所有
日本で現存が確認されている原爆投下から最も早い時期に撮られたニュース映像。画像は大破した広島県産業奨励館（現在の原爆ドーム）

★動画公開 URL NHK アーカイブスサイト

<https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D00091812740000>



23. 学術調査に伴う記録動画フィルム（110分）★

1945年9月下旬から10月、日本映画社撮影、国立映画アーカイブ所蔵

「原子爆弾災害調査研究特別委員会」に同行し、さまざまな被害状況を撮影。画像は広島赤十字病院で撮影された髪が抜け落ちたきょうだい

★動画公開サイト（一部）RCC「ヒロシマの記憶」

<https://rcc.jp/peace/kioku/>

■報道用素材の提供方法

所属(社名)、名前、電話番号、メールアドレスを明記して下記にメールでお申し込みください。写真についてはダウンロード用のクラウドにアクセスするためのパスワードなどを返信メールでお送りします。動画とサムネイル(動画から切り出した静止画)に関しては、提供方法を返信メールでご案内します。申し込みは12月1日(金)までです。

【写真 21 点】

中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター peacemedia@chugoku-np.co.jp

TEL 080-2933-7268 (木ノ元、金崎)

【動画・サムネイル 日本ニュース第257号】

日本放送協会メディア総局知財センターアーカイブス部 田中清隆

tanaka.k-je@nhk.or.jp TEL 03-5455-4380

※動画と静止画(動画から切り出したサムネイル数枚)をダウンロードできる URL をご連絡します

※テレビ各社向けには NHK から東京キー局向けに動画分岐予定

※デジタル使用時は下記 URL から動画を再生できます

https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0009181274_00000

【動画・サムネイル 学術調査に伴う記録動画フィルム】

中国放送報道制作局報道制作センター 小林康秀

koho@rcc.co.jp 082-222-1132

※動画(50秒程度)と静止画(数枚)をダウンロードできる URL をご連絡します

※閲覧のみですが以下のサイトで一部見ることができます <https://rcc.jp/peace/kioku/>

■下記の使用期限や使用条件を順守してください

- ・ダウンロードした写真や動画の使用期限は2023年12月8日(日付が翌日になる前)まで(デジタル、再放送、ネット配信、オンデマンド放送を含む)
- ・報道目的のみ使用可(出版や広告での使用不可、販売不可)
- ・必ず撮影者名と所有者・所蔵者・提供者名を入れて使用
- ・トリミング、着色などの改変不可
- ・「世界の記憶」国際登録申請に関する記事との併用のみ使用可(写真、動画だけの使用不可)
- ・デジタル(ウェブ)使用可(ヤフーなど外部プラットフォームへの配信も可)
- ・デジタル使用時は写真画像だけでは取り出せない措置を取り、「無断転載不可」などと記す
- ・電子新聞(紙面ビューワー)使用可
- ・新聞データベース使用可(ただし写真だけの使用や販売は不可。記事との併用のみ可)

申請者事務局(中国新聞社)

以上